≪～ 吉村潔子 ・ ジョアンナ モレール -ブレジンスカ ・ クラウス モレール ～≫

～ 三音楽家のプッタパルティに於ける活動のご紹介 ～

1996年11月23日　スワミ70歳の御降誕祭に、**吉村潔子** は初めてプッタパルティに尊神サティア サイババを訪ね、そのオープニングセレモニーにおいてグループバジャンの一員としてバイオリンの奉納演奏を行う。それを機に、スワミの御意思により東西文化交流の架け橋となるべく発足したサイシンフォニーの前身である“サイ ユニバーサル シンフォニーオーケストラ”のコンサートマスターに選ばれ、翌1997年、プーナチャンドラホールにおける西洋音楽に基づくグルプールニマコンサートでは、ビバルディの「四季」より『春』 を独奏する。スワミは指輪を物質化されてその労をねぎらう。それ以降現在に至るまでスワミの御前における20回に及ぶコンサートに参加、その役割を果たす。
参照：vimeo（saicast）1996 July 29. Sathya Sai Universal Symphony Orchestra

それと前後して、ジュネーヴを中心にヨーロッパで活躍中のコンサートピアニスト、**ジョアンナ モレール- ブレジンスカ**は、2004年、プッタパルティにおける初めてのピアノ演奏をプーナチャンドラホールにおいてスワミに捧げ、その心のこもった卓越した演奏にスワミは非常に満足され、指輪とネックレスを物質化された。 参照: https://youtu.be/UtDmmujQDik

その時の演奏に感銘を受けた、既にプッタパルティ音楽学校の音楽教師であったエレンエルハートの要請により、夫の **クラウス モレール**もサイシンフォニーの指揮者に任命され、2005年～2007年、グルプールニマと御降誕祭に、その駿腕をふるう。今までにも増して、全員一丸となったオーケストラのダイナミックな演奏にスワミは大いに満足され、ジョアンナと同じくクラウスにも指輪とネックレスを物質化された。

2013年、モレール夫妻はスワミの音楽学校の中核となるべく小・中学校の教師に任命されそれ以降、東洋と西洋の交流のため、西洋音楽の普及と教育に努めている。
クラウスとジョアンナとの友情により吉村潔子も2011年Xmasより生徒の指導にあたる。

現在、クラウスはサティアサイ音楽学校の中枢として、年に半年以上をインド プッタパルティで過ごし、またジョアンナもそれに追従している。

彼らの住まいではインド プッタパルティにおける西洋音楽の中心的な存在として定期的なコンサートが行われ、また、公的な場所を含め、インドの様々な場所での音楽会を企画している。